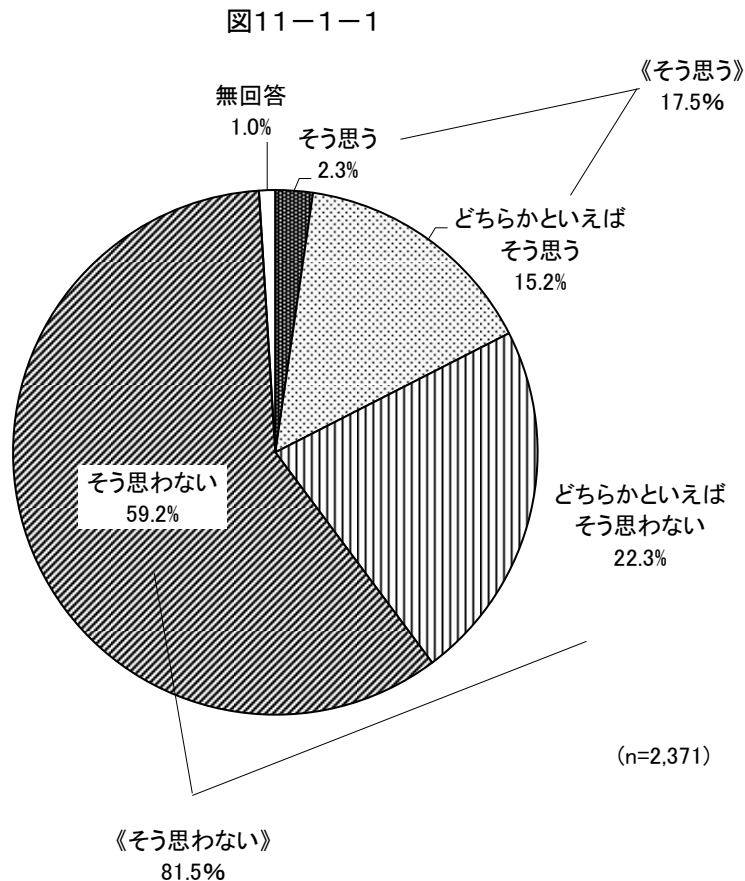


## 1.1. 男女共同参画の推進

### (1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

◎「そう思わない」がほぼ6割

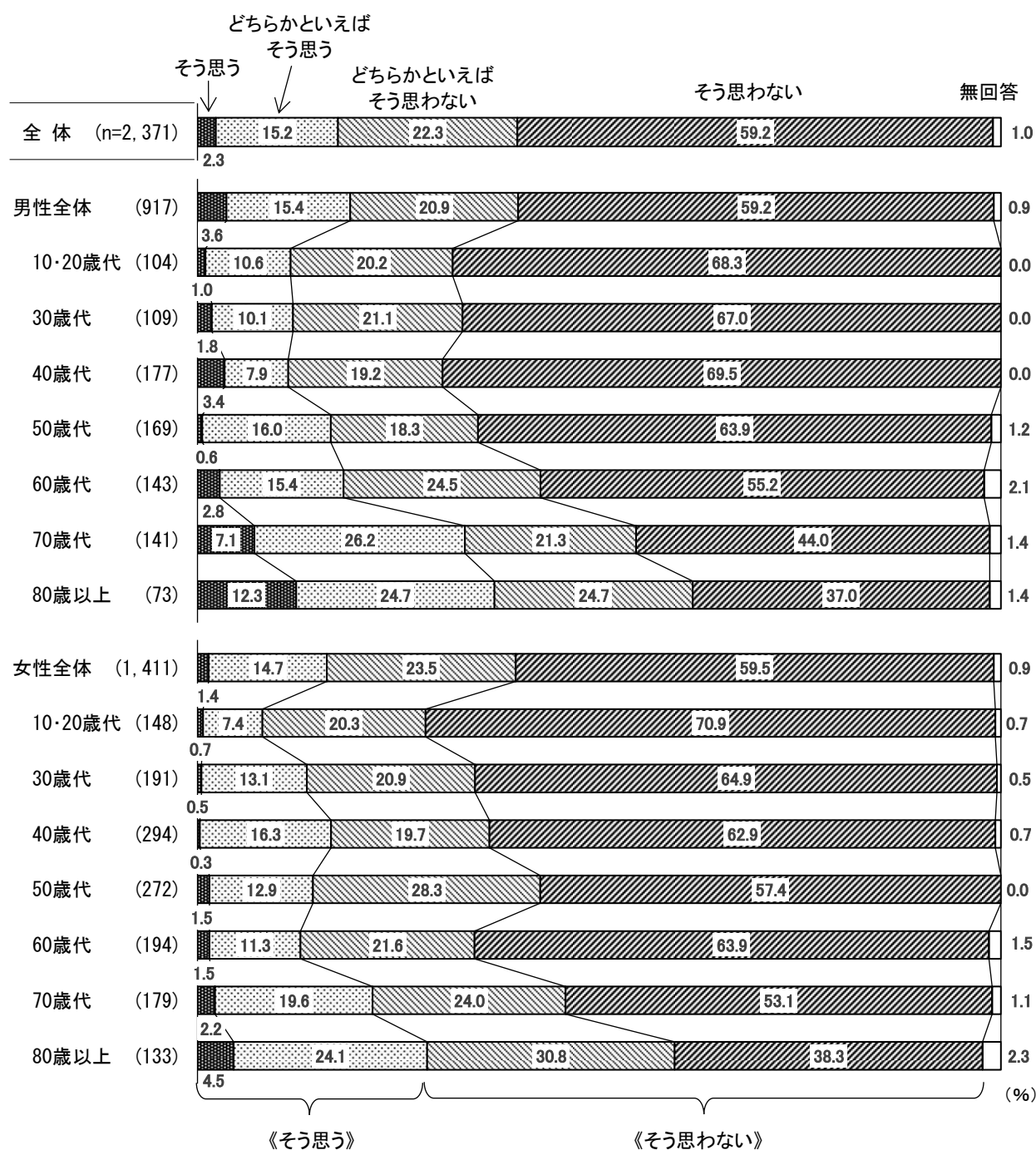
問41 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方に共感しますか。(○は1つ)



#### <調査結果>

「男は仕事、女は家庭」という考え方について共感するか聞いたところ、「そう思わない」(59.2%)がほぼ6割で最も高く、「どちらかといえばそう思わない」(22.3%)と合わせた《そう思わない》(81.5%)が8割を超えている。「どちらかといえばそう思う」(15.2%)と「そう思う」(2.3%)を合わせた《そう思う》(17.5%)は2割近くとなっている。(図11-1-1)

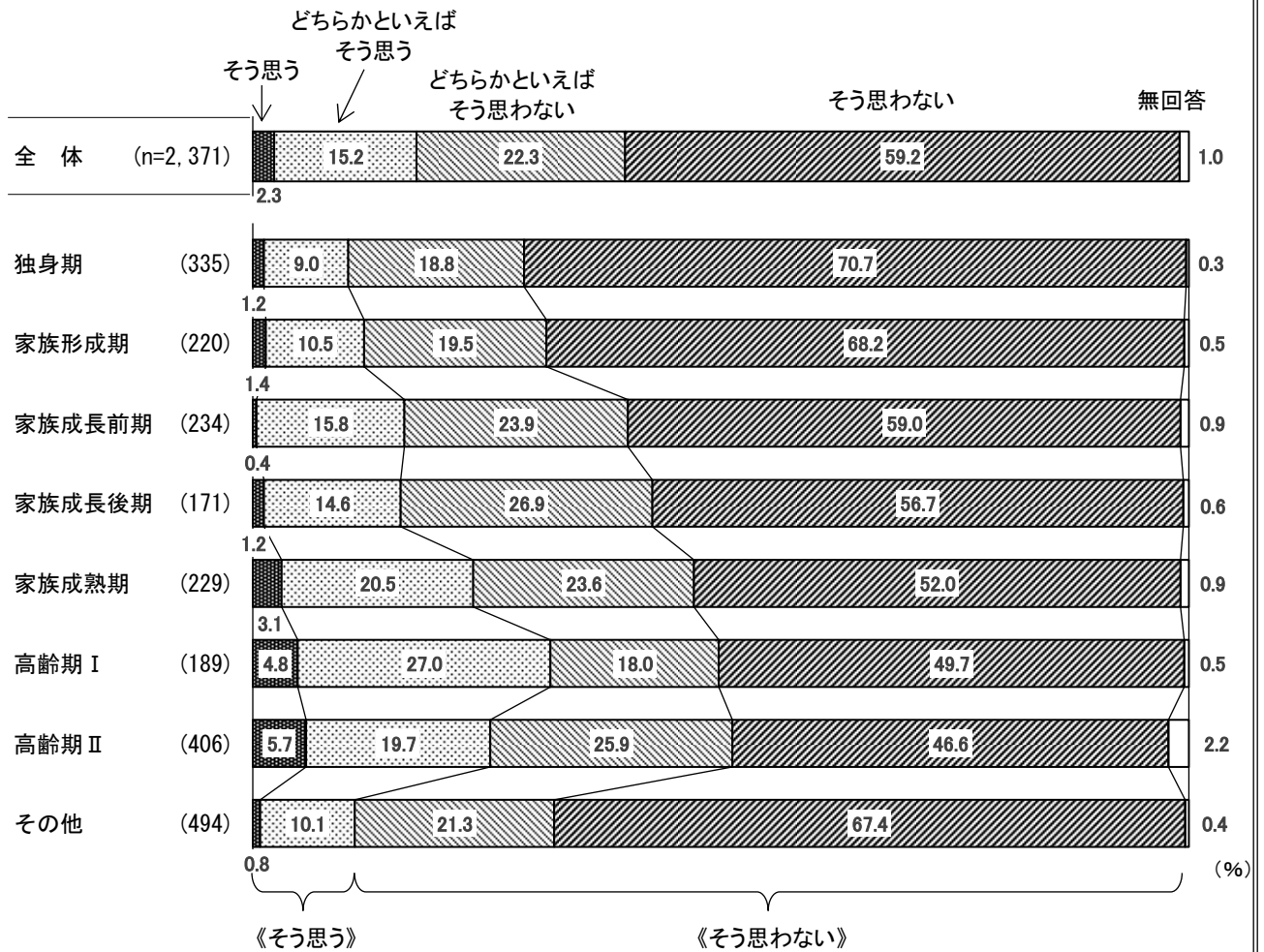
図11-1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について(性・年齢別)



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、《そう思う》は男女とも70歳代以上が高く、男性の80歳以上で4割近く、70歳代で3割を超え、女性の80歳以上で3割近く、70歳代で2割を超えている。一方、《そう思わない》は女性の10・20歳代で9割を超え、男性の30歳代以下で9割近く、女性の30歳代、50歳代、60歳代で8割半ばとなっている。(図11-1-2)

図11-1-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について（ライフステージ別）



〈調査結果〉

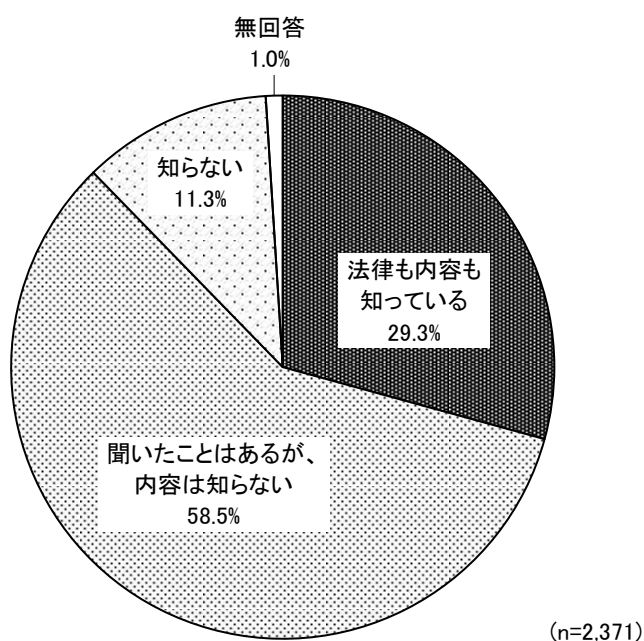
ライフステージ別にみると、《そう思う》は高齢期 I で3割を超え、高齢期 II で2割半ばとなっている。《そう思わない》は独身期で9割、その他と家族形成期で9割近く、家族成長後期と家族成長前期で8割を超えている。（図11-1-3）

## (2) 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度

◎ 「聞いたことはあるが、内容は知らない」が6割近く

問42 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」（DV防止法）を知っていますか。（○は1つ）

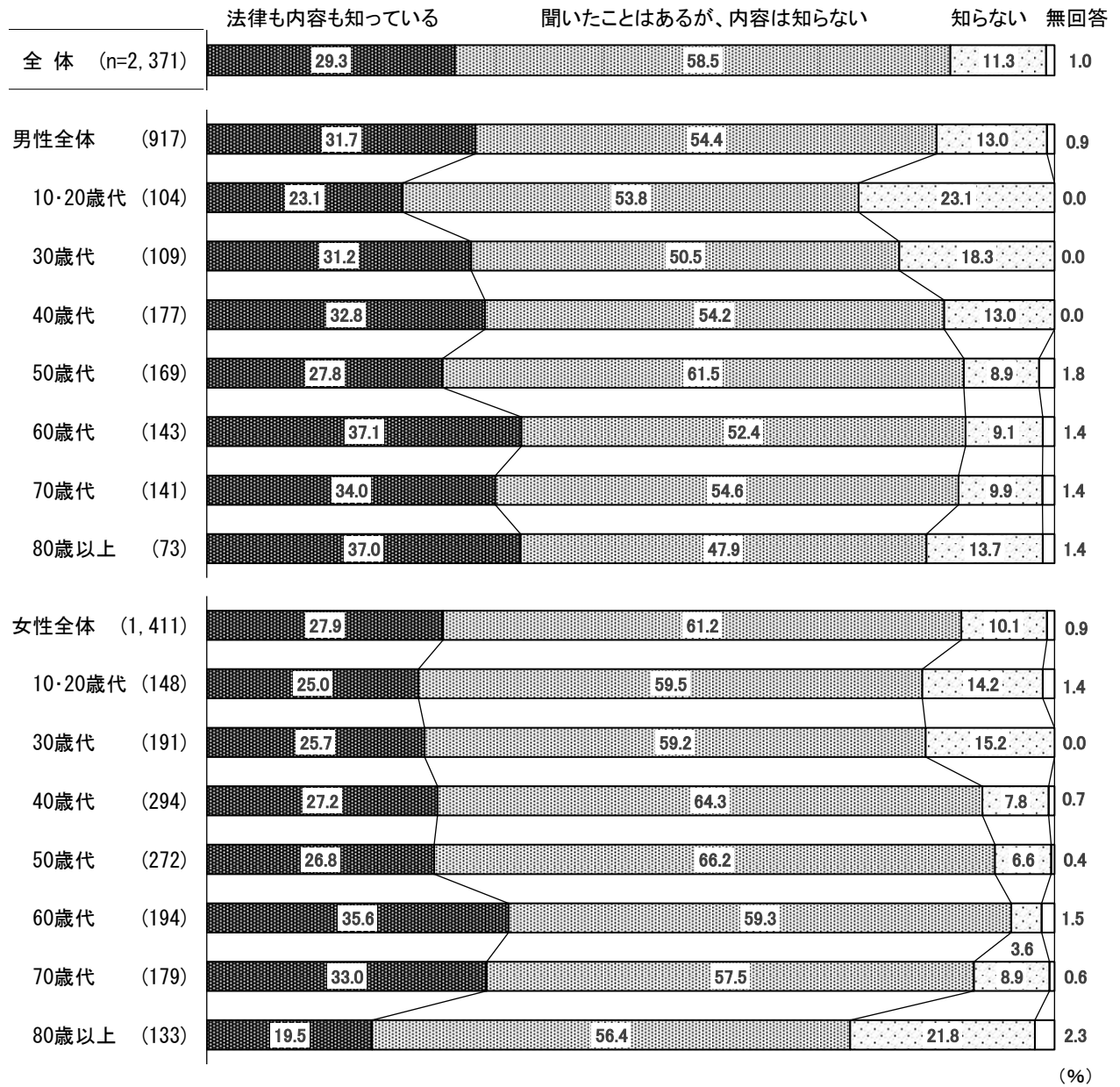
図11-2-1



### <調査結果>

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度を聞いたところ、「聞いたことはあるが、内容は知らない」（58.5%）が6割近くで最も高く、「法律も内容も知っている」（29.3%）はほぼ3割、「知らない」（11.3%）は1割を超えている。（図11-2-1）

図11-2-2 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度(性・年齢別)

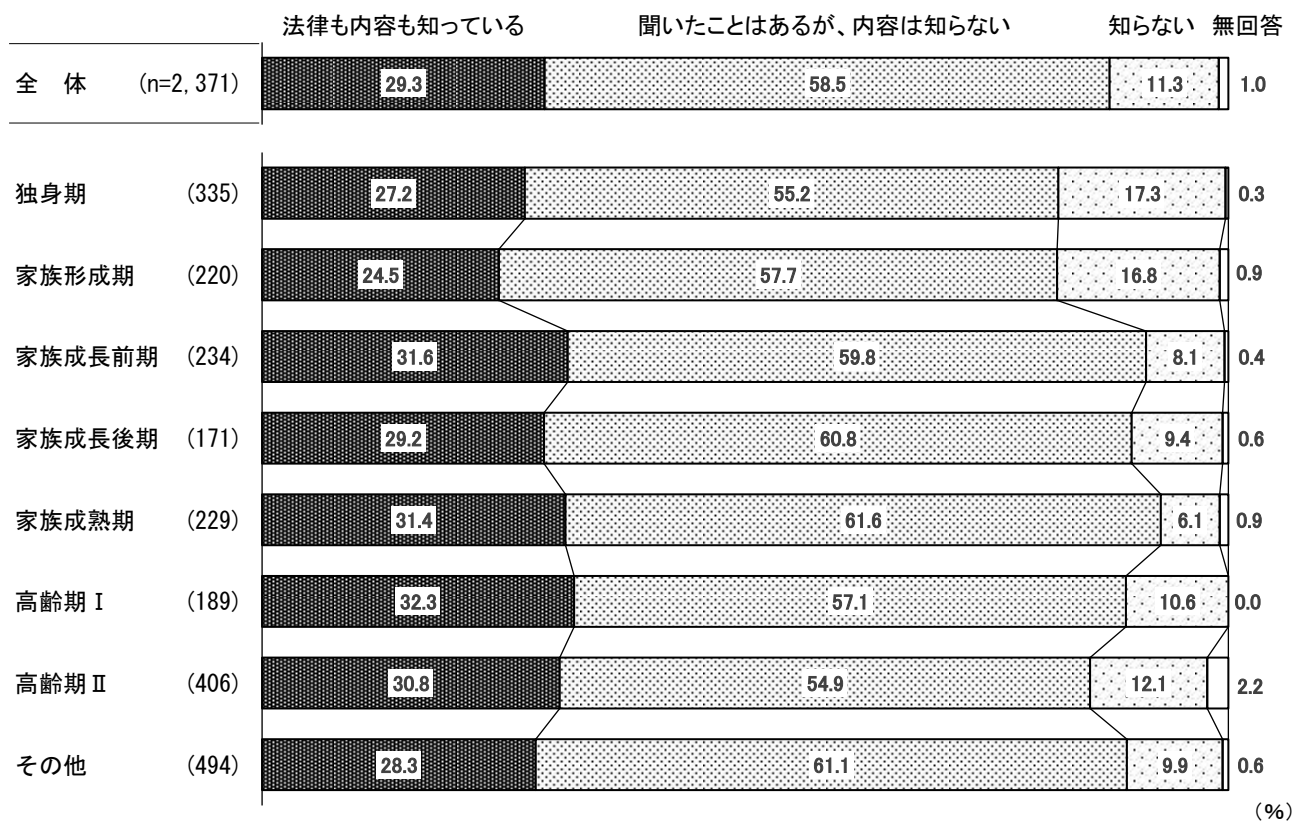


〈調査結果〉

性・年齢別にみると、性別による大きな差異はみられない。「法律も内容も知っている」は、男性の60歳代と80歳以上で4割近く、男性の70歳代と女性の60歳代で3割半ばとなっている。「知らない」は男性の10・20歳代と女性の80歳以上で2割を超え、男性の30歳代で2割近くとなっている。

(図11-2-2)

図11-2-3 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」の認知度  
(ライフステージ別)



〈調査結果〉

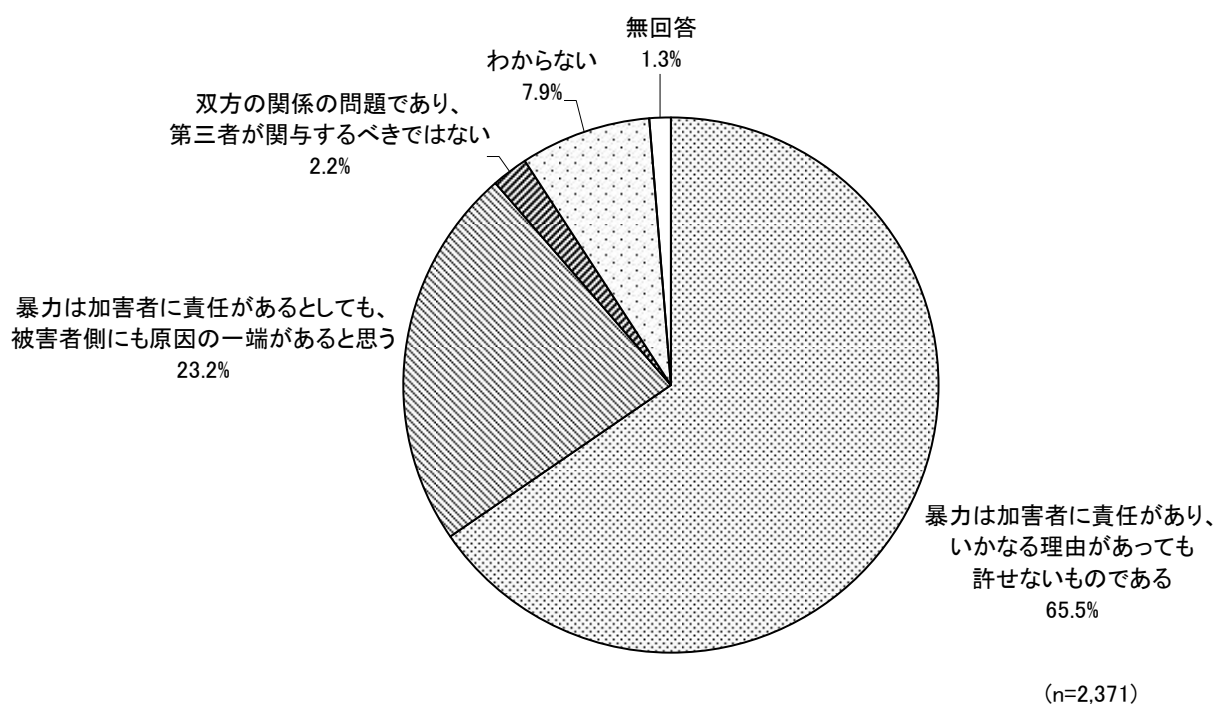
ライフステージ別にみると、「法律も内容も知っている」は高齢期 I、家族成長前期、家族成熟期で3割を超え、高齢期 II と家族成長後期ではほぼ3割となっている。「知らない」は独身期と家族形成期で2割近くとなっている。(図11-2-3)

### (3) 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方

◎「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」が6割半ば

問43 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス＝夫婦（事実婚・離婚後も含む）や恋人という親しい関係で生じる暴力、人権侵害」について、どのようにお考えですか。（○は1つ）

図11-3-1

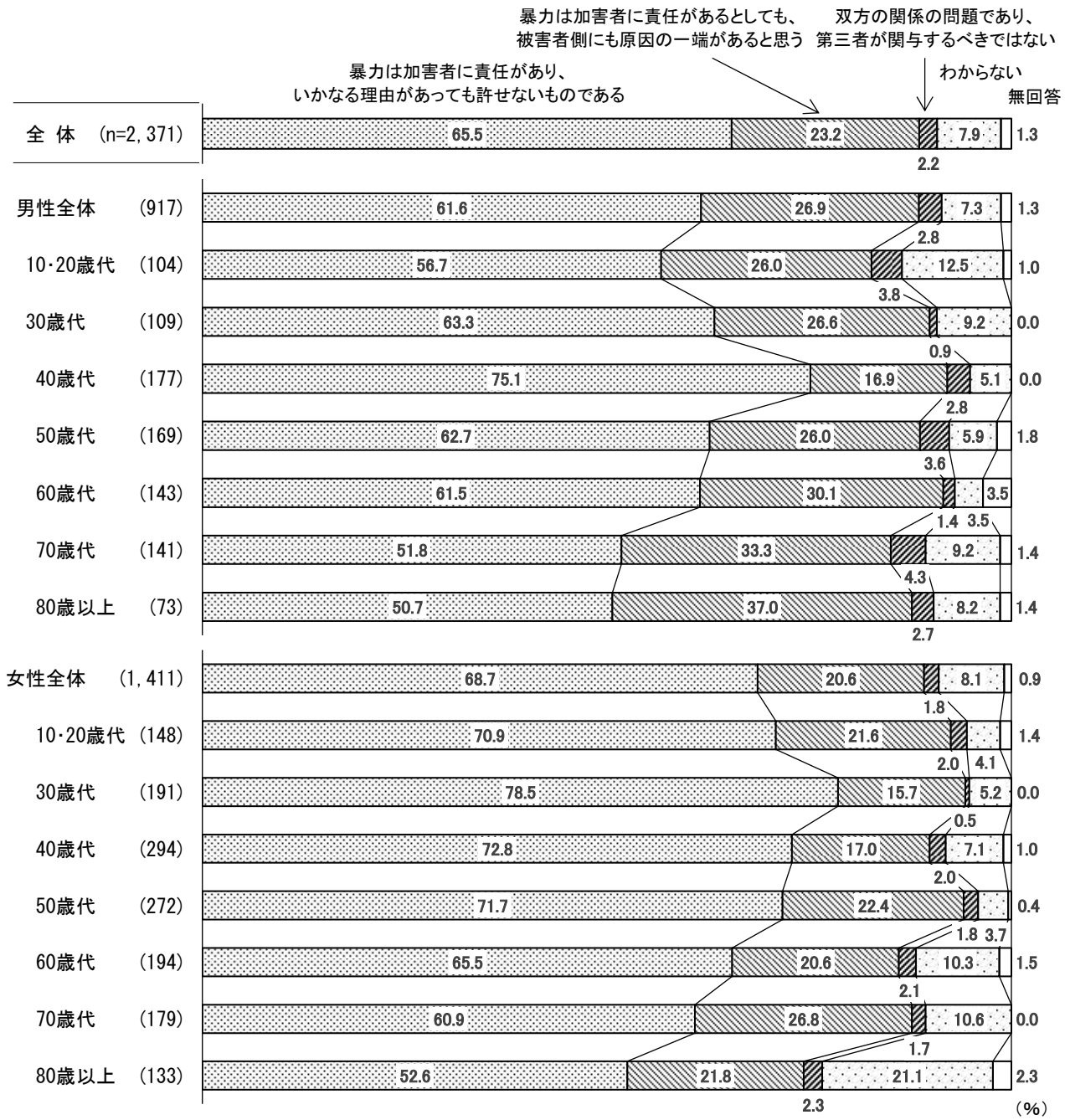


#### <調査結果>

「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方について聞いたところ、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」（65.5%）が6割半ばで最も高く、「暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」（23.2%）が2割を超えている。

(図11-3-1)

図11-3-2 「ドメスティック・バイオレンス」に対する考え方(性・年齢別)



<調査結果>

性・年齢別にみると、「暴力は加害者に責任があり、いかなる理由があっても許せないものである」は女性の30歳代が8割近く、男性の40歳代が7割半ば、女性の40歳代と50歳代が7割を超え、女性の10・20歳代がほぼ7割となっている。「暴力は加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」は男性の80歳以上で4割近く、70歳代で3割を超え、60歳代で3割となっている。

(図11-3-2)

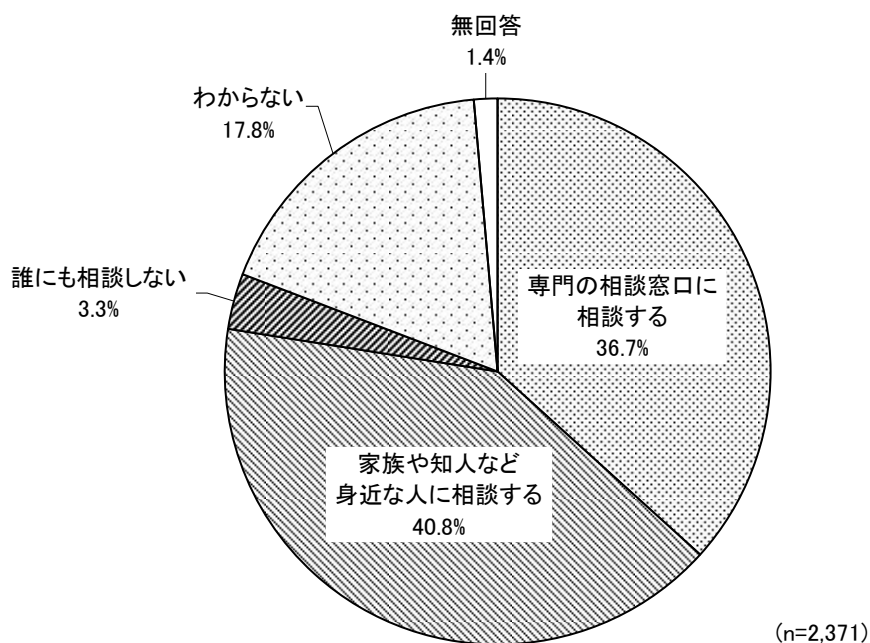


#### (4) DV被害にあったときの相談先

◎「家族や知人など身近な人に相談する」がほぼ4割、「専門の相談窓口」に相談する」が4割近く

問44 あなたは、DV被害にあったとき、どのようにしますか。(〇は1つ)

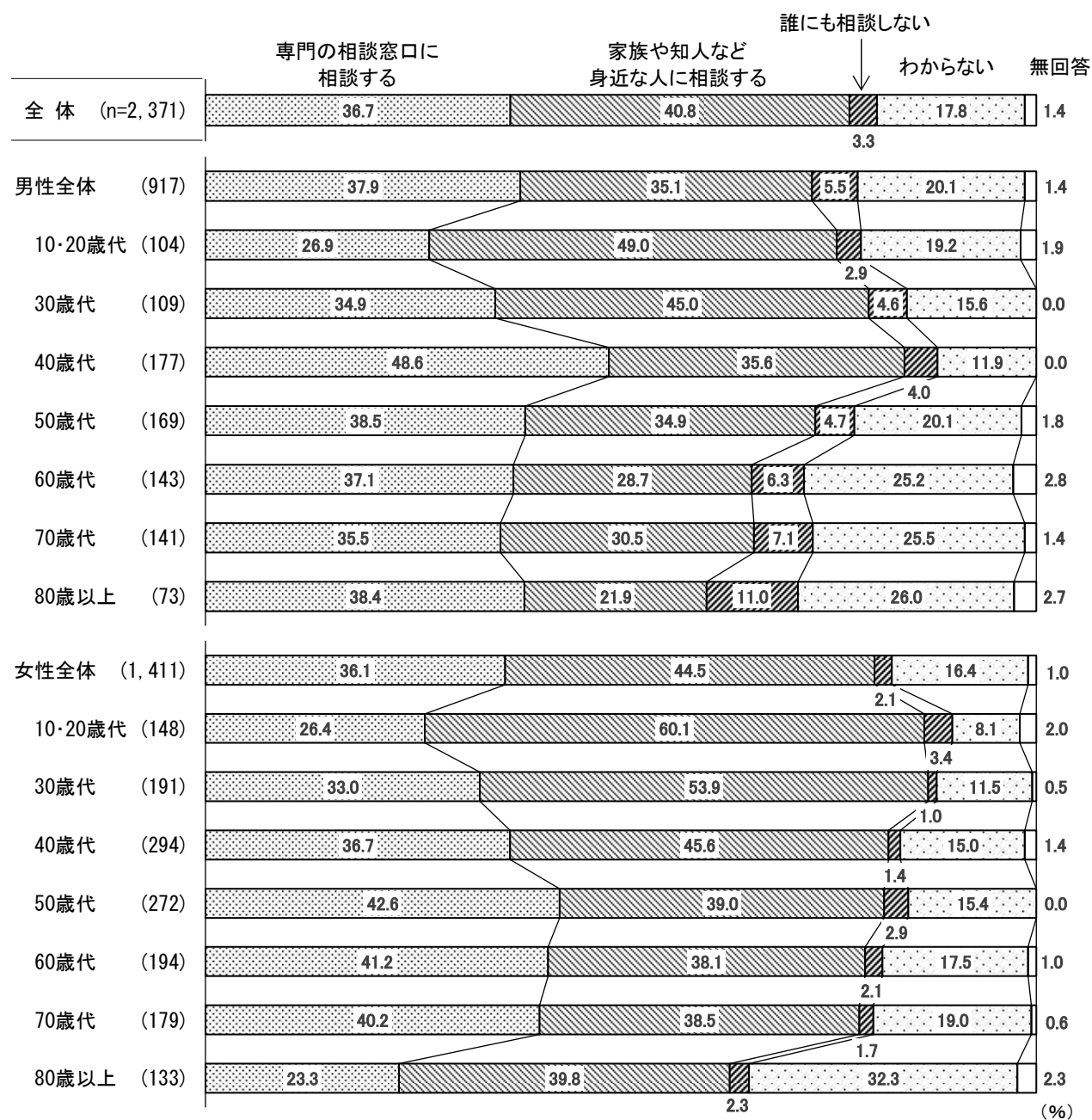
図11-4-1



#### <調査結果>

DV被害にあったときの相談先について聞いたところ、「家族や知人など身近な人に相談する」(40.8%)がほぼ4割、「専門の相談窓口」に相談する」(36.7%)が4割近くとなっている。「誰にも相談しない」(3.3%)は1割に満たない。(図11-4-1)

図11-4-2 DV被害にあった時の相談先(性・年齢別)



<調査結果>

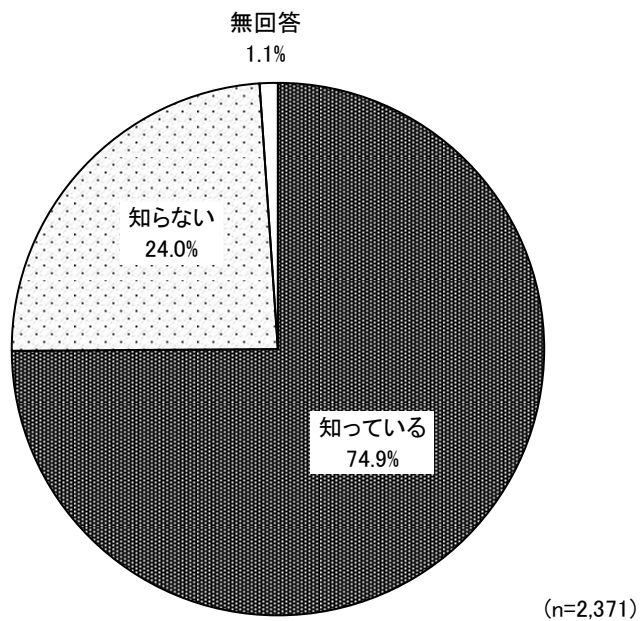
性・年齢別にみると、女性はいずれの年代も「家族や知人など身近な人に相談する」が男性より高く、10・20歳代は6割、30歳代は5割を超えている。「専門の相談窓口」に相談するは男性は40歳代以上、女性は50歳代～70歳代で「家族や知人など身近な人に相談する」より高く、特に男性の40歳代は5割近くとなっている。(図11-4-2)

## (5) 性的マイノリティという言葉の認知度

◎「知っている」が7割半ば

問45 あなたは、性的マイノリティという言葉を知っていますか。(○は1つ)

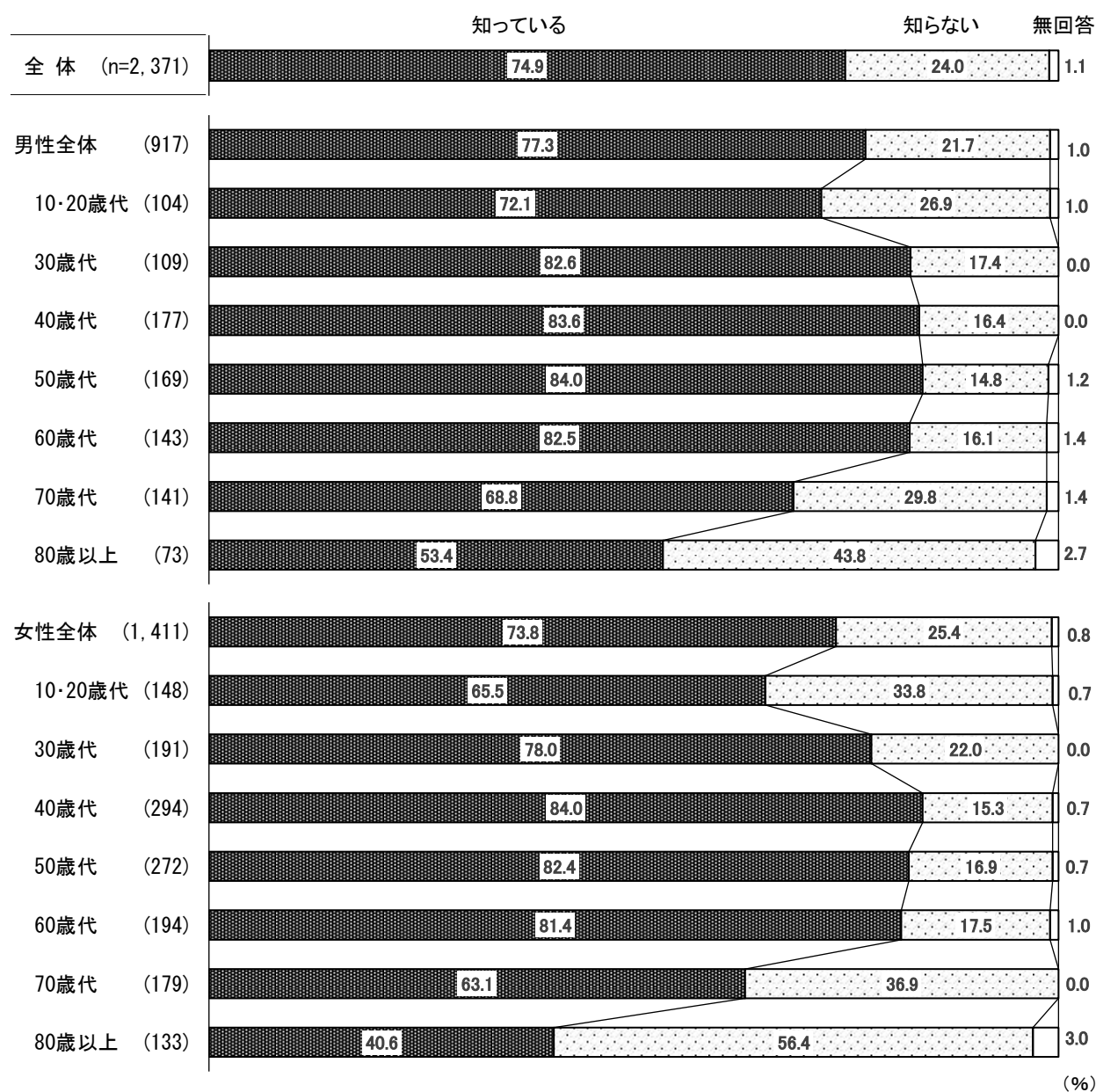
図11-5-1



<調査結果>

性的マイノリティという言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」(74.9%)が7割半ば、「知らない」(24.0%)が2割半ばとなっている。(図11-5-1)

図11-5-2 性的マイノリティという言葉の認知度(性・年齢別)



〈調査結果〉

性・年齢別にみると、性別による大きな差異はみられない。「知っている」は男性の30歳代～60歳代、女性の40歳代～60歳代が8割台、女性の30歳代が8割近くとなっている。(図11-5-2)